



首里城下町クリニック



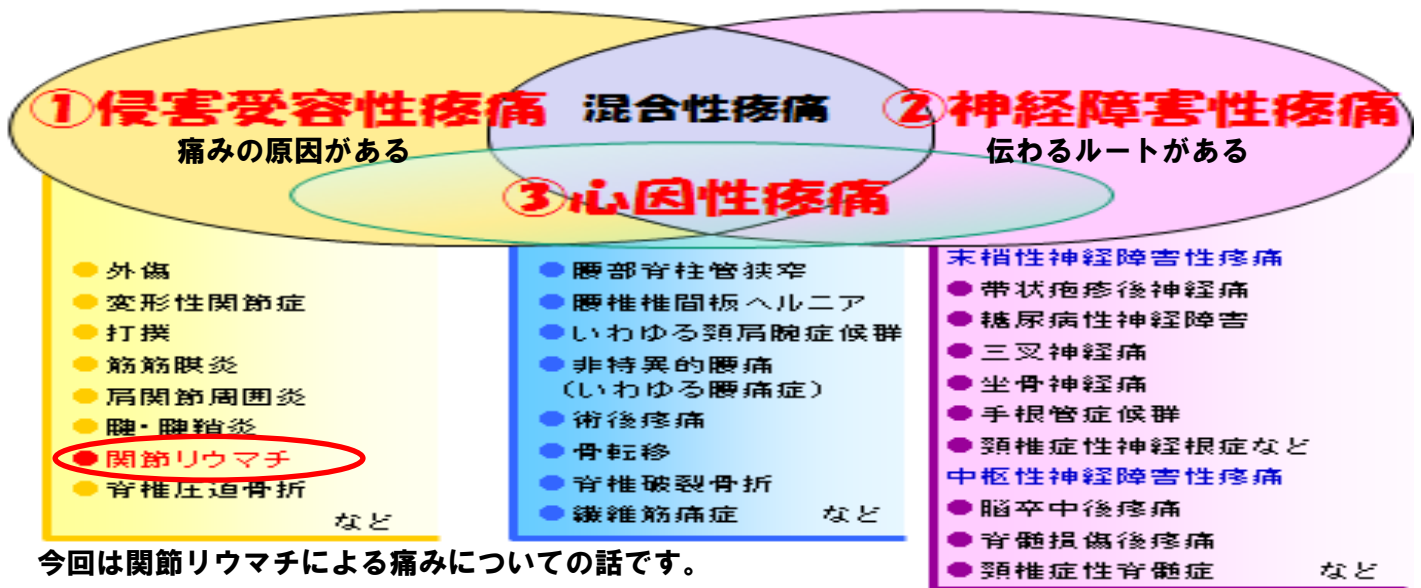
産業医 田名 毅
(首里城下町クリニック)

鎮痛剤（痛み止め）について

〜リウマチ性疾患を中心に〜

今月の地域向け医療講演会は、当院リウマチ専門医 比嘉 啓 医師に講演してもらいました。その内容をご紹介します。

1. 痛みの種類

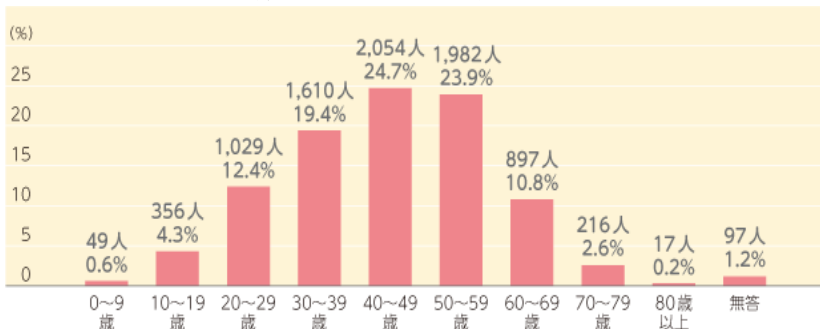


*この痛みには武田鉄矢さんができるCMのくすり リリカが使われています

2. 関節リウマチ (RA) とは

関節リウマチは、免疫の異常により主に手足の関節が腫れたり痛んだりする病気である。進行すると、骨や軟骨が壊れて関節が動かせなくなり日常生活が大きく制限される。

人口の1%程度に発症し、好発年齢は30~50歳 男女比 1:4 初期からきちんとした治療を行わないと関節変形が進行し、急性炎症性疼痛から慢性疼痛へ移行する。原因は、まだよくわかっていないが、細菌やウイルスの感染、過労やストレス、喫煙、出産やけがなどをきっかけに発症することがある。家系内で発症することもあるが、一般にそれほど強い遺伝性はない。



(2010年 リウマチ白書 (社) 日本リウマチ友の会より)

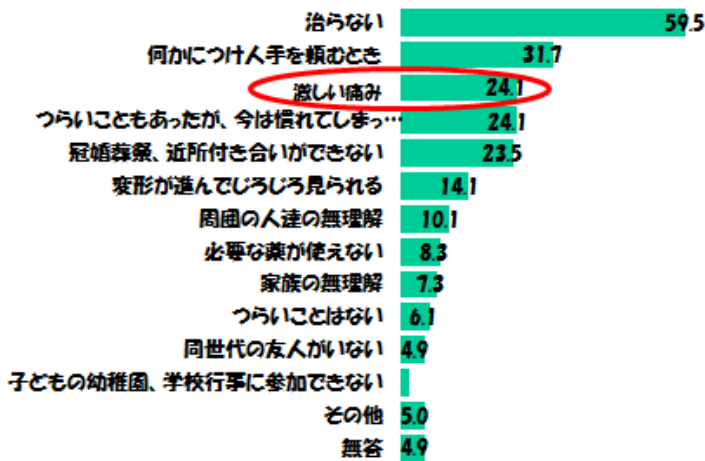


中期関節リウマチ



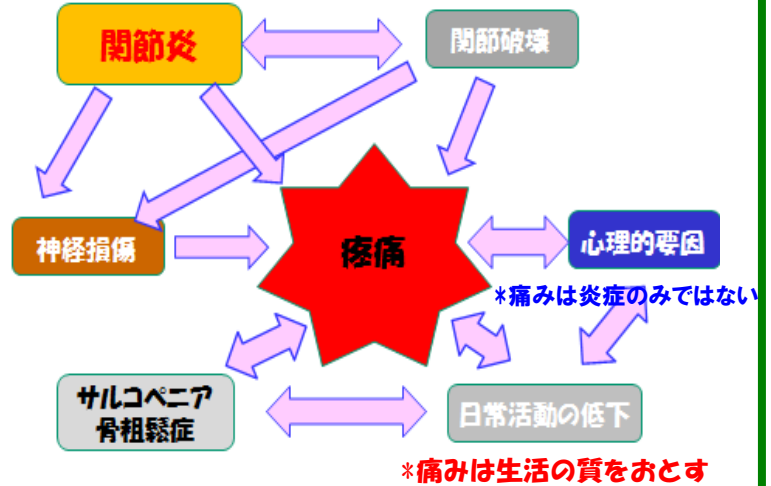
後期関節リウマチ

3. 関節リウマチ患者の一番つらいこと

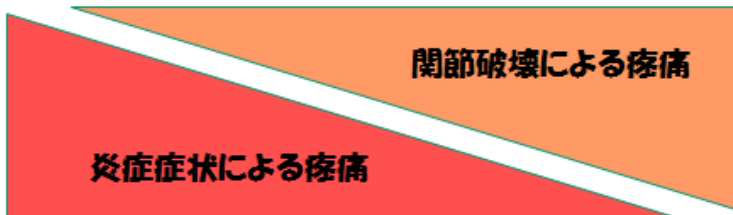
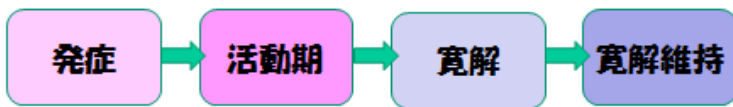


公益社団法人 日本リウマチ友の会「2010年リウマチ白書」

4. 疼痛を惹起する因子



5. 関節リウマチ発症からの流れにおける痛みの管理と用いられる薬物の種類



- 痛みを軽減するための薬剤 (必須ではない)
 - 非ステロイド性抗炎症剤
 - その他の痛み止め (アロプリムン、神経障害性疼痛、セロイド、神経障害性疼痛治療薬)
 - ステロイド剤 (ホルモン剤、炎症を抑える効果大)
- 病気自体を沈静化するための薬剤 (ほぼ必須)
 - 免疫調整剤
 - 免疫抑制剤
 - 生物学的製剤
- 補助的な目的を持つ薬剤
 - 骨粗しょう症治療薬
 - 胃粘膜に対する薬物
 - 鉄剤
 - 葉酸製剤 などなど...

6. 関節リウマチ疾患で使用する薬

	痛みの種類			お薬の特徴	注意点
	侵害受容性疼痛	混合性疼痛	神経障害性疼痛		
非ステロイド性抗炎症薬	○	○		・速効性が期待 ・炎症を抑える作用が期待	・胃炎、胃潰瘍 ・腎機能の低下
COX2 選択的阻害薬	○	○		・持続性が期待 ・炎症を抑える作用が期待 ・NSAIDsで見られる胃腸障害や腎障害が少ない	・NSAIDsよりは少ないながら同様の注意が必要
アセトアミノフェン	○	○		・市販の風邪薬にも含まれる場合がある ・解熱鎮痛作用はあるが、抗炎症作用は持たない	・肝機能の低下 ・市販の風邪薬との併用で過剰投与の可能性
神経障害性疼痛治療薬		○	○	・服用後の車の運転や危険を伴う機械の操作は控える	・めまい ・眠気 ・ふらつき
セロイド	○	○	○	・他の痛みどめで十分効果が得られない場合に使用 ・服用後の車の運転や危険を伴う機械の操作は避ける	・嘔気、嘔吐 ・便秘 ・めまい、ふらつき ・眠気



7. 最後に

関節リウマチで辛いことの上位に痛みがあるが、その対応はあくまでも対症療法となっていた。その原因のひとつに痛み止めには依存(癖になる)性があること、根本の診断・病態治療が遅れる恐れがあることがあげられる。今後は、患者さんの生活の質を改善させるために、薬の副作用に注意しながら積極的に痛みを取っていくことが求められており、その手段(治療薬)が近年揃ってきている。